

第83回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年4月11日 (月) 14時～17時

兼題「燕」

- 川井素山 ○岬の畝くろぐろと伸び初燕  
木洩れ日の縞をつくれる春シヨール  
閑伽桶の一つ残れる彼岸かな  
潮干狩簀立の底に跳ねる魚
- 保井寶正 ○初燕戻りましたと軒つつく  
カシオペア春風まとひラストラン  
人去りて桜薬降る憂の国  
主なき紫木蓮けふ咲にけり
- 青木英林 ○待ちわびつ春大根の芽かきせり  
子燕は顔中口に餌をねだる  
公園の桜絨毯つむじ風  
源平の誰が仲介桃の花
- 後藤克彦 ○万歩計歩きにじゃまの花見客  
空家にも古巢氣に入り燕来る  
予報ずれ日ごとに増へる <sup>はなむしろ</sup>花筵  
沿線に黄色レール引く菜花かな
- 佐久間喬 ○無縁墓に聞こゆ鐘の音彼岸寒  
初つばめ学帽駆ける土手の上  
山門に色を残して夕桜  
トンネルを抜けいきなり春時雨
- 丸山酔宵子 ○うたた寝や覚めて車窓は花の列  
高遠は四方八方花の雲  
春雷や雹が窓打つ縄のれん  
突風で着地乱れるつばめかな
- 菊地崇之 ○春の宵女将造りし夢世界  
洞窟や雲雀見えねど笛残る  
新幹線ツバメ飛び越し海渡る  
春雨や暖簾を下す手が招く

- 牧野里山 ○若葉どき湖畔の径も耀けり  
百千鳥今年は未だ姿なし  
山歩き若葉透して陽の光  
高低く川面の上に燕舞う
- 吉田啓悟 ○覚めてみる夢もありけり花吹雪  
暮なずむ空わがものに初燕  
夕暮れの皇居の堀に 柳絮<sup>りゅうじよ</sup> とぶ  
それぞれの息のしめりや春の暮
- 佐久間たか子 ○切通し抜けて陽あびる花吹雪  
岩つばめ高千穂の空縦横に  
大仏を見上げ桜のひらひらり  
児らが吹く笛より巧しうぐいすや
- 山本草風 ○奔<sup>はし</sup>り馬気を静めたる 朧<sup>おぼろ</sup> かな  
初つばめ縦横無<sup>そら</sup>尽 宙を裁つ  
頸城野は初虫が飛ぶ日和かな  
時すぎて夢見る人の桜酒
- 金森純女 ○隅っこの雛忘るるなつばくらめ  
瑠璃のポウルデ愚痴る浅蜷かな  
島国に何呼びよせる潮まねき  
花筏すくう指先見てをりぬ
- 佐伯兵庫 ○花粉症暗き顔立ちなほ暗い  
散る桜校門前で出迎へる  
春耕やいい汗かいてボランティア  
電車を追い越して行くつばめかな

次回「萩句会」

日時 2016年5月9日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『噴水』一句 当季雑詠三句 計四句